

Spiritualism News Letter

2005
第30号

7月1日発行

スピリチュアリズム・ニューズレター

発行/スピリチュアリズム・サークル 心の道場
発行人/小池里予
〒441-3141 愛知県豊橋市大岩町字北山468-1
TEL 0532-41-0537 FAX 0532-41-8257
ホームページアドレス <http://www5a.biglobe.ne.jp/~spk/>

今号の内容

- ・良きスピリチュアリストになるためには、まず何から始めたらよいのか…………… 1
- ・本物のスピリチュアル・ヒーラーになるための修行とは……………12
- ・スピリチュアリズム・トピックス
ホワイトハウスで“霊媒”に出会った大統領リンカーン……………20

良きスピリチュアリストになるためには、 まず何から始めたらよいのか

霊的人生の第一歩を、どのように出発すべきか

1 || スピリチュアリスト人生を出発 するうえでの大原則 —すべての改革は、まず自分から

スピリチュアリスト人生に、たどり着くことができた幸運

地上においてスピリチュアリズムと出会える人は、きわめて限られています。その中でスピリチュアリズムの霊的真理、特にシルバーバーチの霊訓を最高のものと実感できる人は、ごく一握りにすぎません。

スピリチュアリズムやシルバーバーチの霊訓と出会いながら、その価値を実感できない人達も大勢います。シルバーバーチよりもっと優れたものがある、シルバーバーチの霊訓は間違いではないが、最高の真理ではないと言う人々もいます。霊的真理の価値の実感は霊的直観によるものである以上、そのように思う人がいても仕方ありません。霊性の問題があるからです。

シルバーバーチの霊訓が最高だと思える人の中で、「霊的真理普及」を自分のライフワークにしよ

うと決心できる人は、最も幸せな人間です。なぜなら限られた地上人生を、最高に価値あるものにすることができるからです。

スピリチュアリズムのために人生を捧げようとの決心に至るまでには——「霊界からの導き→スピリチュアリズムの霊的真理との出会い→霊的真理の価値の実感→スピリチュアリズムのために人生を捧げる決心」というプロセスを踏むことになりま。今、シルバーバーチを深く理解し、スピリチュアリズムの霊的真理普及のために人生を捧げる決心をした人は、地球人として最も崇高な生き方を始めようとしていることになります。

霊的人生の第一歩を、どのようにしたらよいのか？

霊界の導きによってシルバーバーチの霊訓と出会った方々から、私達のところに、たびたび次のような質問が寄せられます——「シルバーバーチの霊訓や霊的真理を、一人でも多くの人々に伝えたいと思います。そのために人生を捧げようと思いましたが、具体的に今、何を始めたらよいのでしょうか？」

火がついたように燃え上がる人達

一方、シルバーバーチの霊訓と出会って感激した人達の中には、突如、火がついたように燃え上がり、ホームページを開設したり、読書会を始める人もいます。あちらこちらの知人にと、手当たりしだいにシルバーバーチの霊訓を配り始める人もいます。なかには「イギリスに行ってスピリチュアリズム・チャーチを見てきたいのですが、紹介していただけますか」といった手紙を送ってくる人もいます。

そうした方々に対して私達は、その純粹さと熱意は理解できるものの、「ちょっと待ってください」と言わなければなりません。そして、次のようなシルバーバーチの言葉をお伝えすることにしています。

地上には、自分を変えようとせずに世の中を変えようとする人が多すぎます。他人を変えようと欲するのですが、すべての発展、すべての改革はまず自分から始めなくてはなりません。(中略) 地上人類の霊的再生という大変な事業に携わっていることは事実ですが、それにはまず自分を霊的に新生させなければなりません。真の自我を発見しなければなりません。心を入れ替え、考えを改め、人生観を変えて、魂の内奥の神性を存分に発揮しなければなりません。

(シルバーバーチ1・164)

まずは、自分自身を「霊的再生」させることから

ここでシルバーバーチは、きわめて重要なことを述べています——「情熱に駆られてすぐに行動しないように」ということです。人々に働きかける前に、社会を変革しようとする前に、まず自分の心や考えを根本から徹底的に入れ替えなさいと言っているのです。スピリチュアリズムの霊的真理を一刻も早く人々に伝えたいという思いは素晴らしい利他愛ですが、伝道に走る前に、まず自分自身を確立しなさい

と言っているのです。

自分を「霊的真理」でしっかりつくり替えないうちに伝道や読書会などの働きかけに奔走すると、いつの間にか単なる“活動家”になってしまいます。この世のボランティアと同じようになってしまいます。それどころか「人のため」という純粹な思いは、やがて自分自身の実績を真っ先に追い求める“利己心”になってしまいます。

これでは、スピリチュアリズムを自己満足のために利用するのと同じことです。人々の救いのためと言いながら、結局は自分のためだけの利己的行為になってしまいます。当然、霊的成長とは無関係な歩みをするようになります。

2 || 伝道を始める前の大切な準備 ——スピリチュアリズムの伝道は、 単なる活動ではありません

「霊的再生」のためにすべき3つのこと

自分を霊的再生させるためにすべきことは3つあります——「祈り」「徹底した真理の学習」「スピリチュアリストとしての基本的な心がまえの確立」です。3つ目の基本的な心がまえとは、スピリチュアリズムに導かれたことへの感謝・守護霊への信頼、そしてスピリチュアリズム人生への決意です。

これらは「霊的再生」のための重要な実践項目であると同時に、自らを神の道具・霊界の道具とするための「霊的訓練」の内容ともなっています。外部に向けて働きかけ(伝道)を始める前に、一定の準備期間が必要です。この3つの内容は、霊界の道具として伝道に携わるための準備の条件なのです。1～3年は、一人でじっくりとこのために時間をかけなければなりません。自らをしっかりと確立しなければなりません。

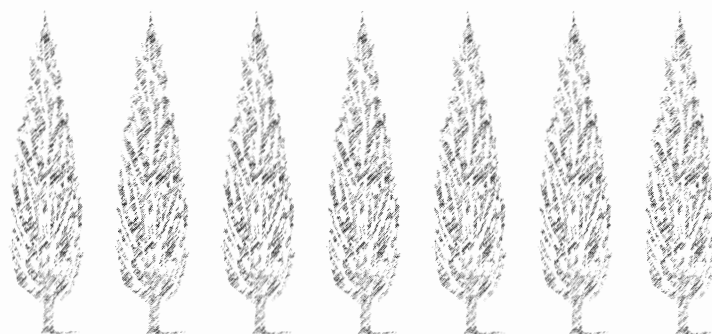
次に、その一つ一つの内容について見ていきます。

祈り

まず初めに「祈り」を覚えましょう。神に語りかける祈りは、最も神聖な霊的实践です。どのように語るのかは、ニューズレターや続スピリチュアリズム入門、シルバーバーチの祈りを参考にしてください。祈りは皆さんの心を深め、霊的世界との交わりを確立するために不可欠な行為なのです。

瞑想だけでなく声に出して、神に語りかけましょう。瞑想だけでは意識を集中できないまま終わってしまいがちです。あらかじめ祈りの言葉を準備してもかまいません。部屋を薄暗くして目を閉じ、神と守護霊と3人だけの静寂な時間を持ちましょう。毎日わずか10分でも続けることが大切です。

神の前に一人出るとき、人間は自分のありのままの姿をさらけ出すことになります。それによって自分の心を浄化することができるのです。本当の祈りをする者は、決して人を騙したりするようなことはできません。祈りは人間を徹底して謙虚にし、物質欲を超越した純粋な霊的心を養います。私達は祈りを通じて“魂”を裸にし、最も深い安らぎとリラックスの時間を持つようになります。日常生活での思い煩い、人間関係のストレスを一瞬にして取り除き、心の底からほっとするひととき一時を持つようになるのです。



徹底した真理の学習

スピリチュアリズムであることの第一条件は「スピリチュアリズムの霊的真理を正しく理解している」ということです。これは当たり前のことなのですが、実際には多くの人々が中途半端な理解しかできないうちに、他人にそれを伝えようとしてします。

もちろん真理の細部に至るまで、すべてを理解しなければならないということではありません。霊的真理の核心部分、ポイントと全体像（アウトライン）を正しく理解しておくということです。この基本的で重要な内容を理解していないと、人々にスピリチュアリズムの素晴らしさを伝えることはできません。人々に語り教える前に、自分自身がまず正しく理解しておくことは最低限の義務なのです。それができないうちに伝道に走るなら、単なる“軽率な人間”ということになってしまいます。

教えを説く者には深刻な責任があることは、ここにおいでの方々がご存知ないはずはありません。知識には責任が伴うことを何度申し上げたことでしょうか。自分を他の人たちより高め、人を教え導きたいと思うのであれば、まずは自分自身が拠って立つ足場をしっかりと固めないといけません。

徹底的に探求し試してみることを怠り、批判に身をさらすこともせずに自己満足し、本当かどうかの確信もないまま人に教えを説くようなことをしていると、その怠慢と軽率さに大きな代償を払わされる時が必ず来ます。

(不滅の真理・69～70)

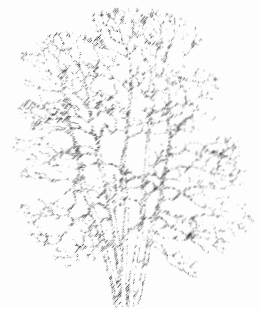
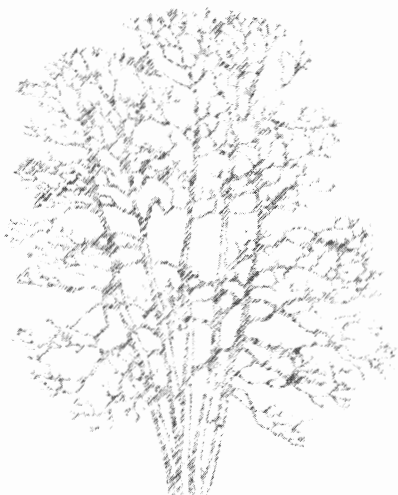
「真理をしっかり学ぶ」ということは、人に伝えるためばかりでなく、何よりも自分自身のためになることなのです。真理は困難や誘惑から皆さんの魂を守り、心を支えてくれます。心を高め、清らかにし、パワーアップしてくれます。心を強くし、忍耐力をつけ、広い霊的視野を与えてくれます。そして心を明るく楽天的にしてくれます。まさに「霊的真理」は、魂にとっての最強の原動力であり武具なのです。

もちろん初めから真理のすべてを理解することはできません。何度も何度も繰り返し読み、まとめたり書き出したりすることを通じて理解は深まっています。率直なところ「シルバーバーチを読んだ」と言っても、せいぜい1～2回というのが大半の人達の実情ではないでしょうか。

スピリチュアリズム関連の本はあまりにも多く、一通り読むだけでも5年、10年とかかかってしまうかも知れません。したがって霊的人生を歩み始めた初期には、良い本を選び、効率よく、集中的に学ぶことが必要となります。（*心の道場ではそのための指針を提示していますので、参考にしてください。）

今述べたように霊的真理を学ぶのは、単に知識を増やすためではありません。また伝道という活動の手段として身につけるのでもありません。何よりも真理を知った本人が、それを実践して霊的成長をなすことが重要です。そのために霊界の人々は、苦勞して私達に真理を伝えてくれたのです。

したがって真理を学ぶについては、常に実践の観点を忘れてはなりません。実生活の中での実践を通じて、真理の深い世界をさらに知ることができるようになります。「何を行うべきか」ということを意識した読み方が必要です。そして自分の置かれた環境の中で、それを実行に移していくことです。実践こそ真理の学びの現場であり、真理を深く体得する効果的な道なのです。（*当サークルではその助けとなるように、スピリチュアリズム入門・続スピリチュアリズム入門・ニューズレターを発行しています。）



スピリチュアリストとしての基本的心がまえの確立

祈りと真理の学習・実践を通じて、スピリチュアリストとしての基本的な心がまえが確立されていきます。実はこれこそが“伝道の準備”としては一番大切なことなのです。スピリチュアリストとしての基本的な心がまえとは——「スピリチュアリズムに導かれたことへの感謝」「守護霊の導きに対する絶対的信頼」「今後の人生をスピリチュアリズムのために捧げる決心」です。

分かってみれば、スピリチュアリズムのためにすべてを捧げられることほど価値ある人生はありません。その恩恵に感謝するばかりです。こうした恵まれた人生を送れるようになったのは、再生前からの決心だけでなく、今日まで陰から献身的な導きをしてくれた守護霊の存在があればこそです。この守護霊への感謝と同時に、「これからも最高の導きをしてもらえる」という信頼の思いをしっかりと自覚することが大切です。地上人が守護霊の導きを自覚するとしないのでは、霊界からの働きかけも大きく変わってきます。

そのうえで次に、手にした恵みを自分だけの喜びとしてとどめるのではなく、「自分の人生を最高の人助けのために捧げよう」と決心することです。スピリチュアリズムをライフワークとする決意を固めるということです。どのような困難や反対があっても「この道貫く」と、心を定めなければなりません。

守護霊に対する絶対的信頼とスピリチュアリズム人生への強い決意がなければ、困難に出会うとあっという間に挫けてしまいます。スピリチュアリストとしての基本的な姿勢が確立していないのなら、何をしても意味がありません。

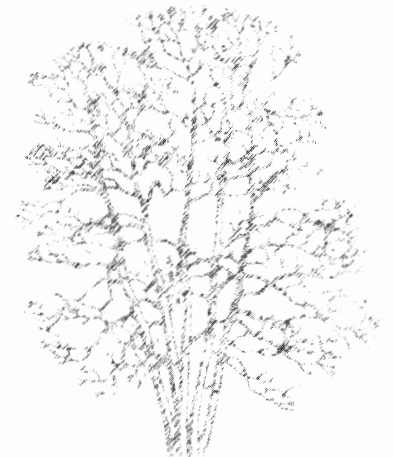
日常生活を霊中心にする——「霊主肉従の努力」

さらにシルバーバーチは、次のような重要なことを述べています——「あなた方の第一の目標は、一人でも多くの人々に真理を届けることです。それに劣らず大切な目標は、(中略)仕事の神聖さを自覚し、日常生活においても、最大限の霊力が自分を通して流入するように、身持ちをきちんとすることです。」

(最後の啓示・166~167)

真理の伝道は大切であるけれども、それと同じように自分自身の日常生活を正すことも大切であると言っています。日常生活を正すとは——「霊主肉従の努力をする」ということです。物質や肉体本能に翻弄された生活を送らないように自制する、質素で清潔な生活、物質中心でなく霊中心の生活をするということです。これは、まさに霊的真理を実行するということです。

こうした内容については、続スピリチュアリズム入門やニュースレターで何度も取り上げていますので、それを参考にしてください。



自らを靈的新生させて初めて「伝道実践」に移る

ここまでのプロセスを、すべて一人で成し遂げなければなりません。人に頼らず自分で準備をします。それは伝道実践のための準備であると同時に、自分自身を靈的に立たしめるプロセス、靈的新生させるためのプロセスとなっています。これを達成して初めて「伝道実践」に移ることができるようになります。他人に真理を伝える資格ができることになります。

こうした準備が十分でないまま活動に入っていくと、必ず失敗します。一人でしっかり神と靈界と真理に向き合い、それらとの関係を深める期間が必要なのです。祈りと真理によって、自分自身を新しく作り上げなければなりません。皆さんが、自分の日常生活を真理にそってきちんと管理できるようになったとき、いよいよ伝道実践に入っていくことができます。

*本当に優れた読書会（*ワイワイ、ガヤガヤと議論したり自己主張する読書会ではなく、真剣に実践することを目的とした読書会）があるならば、それに参加することもよいでしょう。しかし本質的には、「すべて自分自身です」ということを忘れてはなりません。読書会は、あくまでも補助手段と考えるべきです。

3 || 伝道実践の開始——さあ伝道に踏み出しましょう！

伝道は、最高の利他愛の実践・人類への奉仕

シルバーバーチは——「靈的真理を説き聞かせることは、神の愛を注ぐことです」（新たなる啓示・170）と言っています。また「わたしたち靈団側としては、靈的真理を普及することと靈力の威力を発揮することにしか関心はありません」（新たなる啓示・146）と述べています。

真理の伝道は、私達スピリチュアリストにとって最高の利他愛の実践です。スピリチュアリストだけに与えられた最高の奉仕活動です。私達のライフワークは、「靈的真理を人々に伝えていくこと」なのです。

焦って伝道に走ってはならない

しかし、ただ単にやみくもに真理を伝えればいいというわけではありません。そのためにはまず、先に述べたような最低限の準備をすることが必要です。その条件を満たして初めて——「人に真理を伝える資格が与えられる」ということなのです。

伝道がいかに大切だからといって、焦って活動に走ってはなりません。せっかちに活動するようになると、自己流・自己中心的になって、伝道の目的がいつの間にかずれてしまいます。利他愛から離れ、自分の実績を追い求める利己的な行為になってしまいます。スピリチュアリズムを“自己満足”のために利用するといった結果になりかねません。



じっくりと時を待つことです。人間の一番いけない点は、何でも性急に求めすぎることです。その態度を見ていると、まるで大霊に代わって自分が早く片付けてしまいたいと思っているかのようです。何年もの間モグラのように暗闇の中にいたのが、ある日ふと見上げて“光”というものがあることを知ります。するともう、それに夢中になって、今すぐにでも世の中を変えてしまわないと気が済まないような態度を取り始めます。

(新たなる啓示・81~82)

私たちも、あなた方が長い眠りから覚めるのを根気よく待っているのです。何十年も掛かるかも知れません。ところが、ようやく覚めると、いきなり“何をぼやぼやしているのです！早くやらなくては！”と言い出します。大霊は急ぎません。すべてが計画どおりに着実に進化するように、摂理を配剤しておられるのです。

(最後の啓示・51)

私のほうから言わせていただきますが、あなた方が霊的真理に目覚めるまで、私たちはどれほど待たねばならなかったことでしょう。

(最後の啓示・114)

伝道実践で一番大切なもの「道具意識」

——自分の力に頼った伝道は失敗する

伝道実践において一番重要なことは——「自分自身を常に霊界の道具とする」ということです。伝道の主役は霊界の人々であって、私達は地上の道具としてそれに協力する立場なのです。時期がきて真理を受け入れられるようになった地上人を、霊界の霊達が私達のところに導いてくれます。時のきた人との出会いは、霊の働きかけによって実現するのです。

ところがこうした「道具意識」に立った伝道を知らないと、すべてを自分の力でやろうとします。自分のがんばりだけで真理を伝えようとやっきになります。これが多くの人々の現実です。そうしたやり方では、必死になればなるほど疲れ果て、最後は必ず失敗してしまいます。

また中には、真理のレベルを下げて一般受けするようにすれば、多くの人間が受け入れてくれると考える人もいます。しかし、そうした自分の力に頼った自分流の伝道が成功した例は^{ためし}ありません。一時的に人が集まることがあっても、やがてバラバラと離れ、最後には誰もいなくなります。

自分流の伝道は、知らずしらずのうちに自分の実績だけを求める自己中心的な行為にすり替わっていきます。道具意識に立たない伝道は、この世の人気取りや名声を求める自己満足の行為に成り下がり、結局、自分の心さえも醜くすることになってしまいます。



伝道は「道具意識」に立ったとき、最高に利他性が高められることになります。そして結果的にも、最高の実績を上げることができるようになるのです。霊界には、皆さん方の伝道に協力して「一人でも多くの地上人に真理を伝えたい!」と切望している無数の霊が待機しています。皆さん方が自らを「霊界の道具」として伝道を心がけると、それを霊界の霊達が見逃すはずがありません。

私の世界には大霊の使者の大軍が控え、いつでも地上世界のために手助けをする用意を整え、あなたのような道具が“私はいつでも用意ができております。どうぞお使いください”と言ってくださるのをお待ちしている事実を、この目で見て知っているのです。

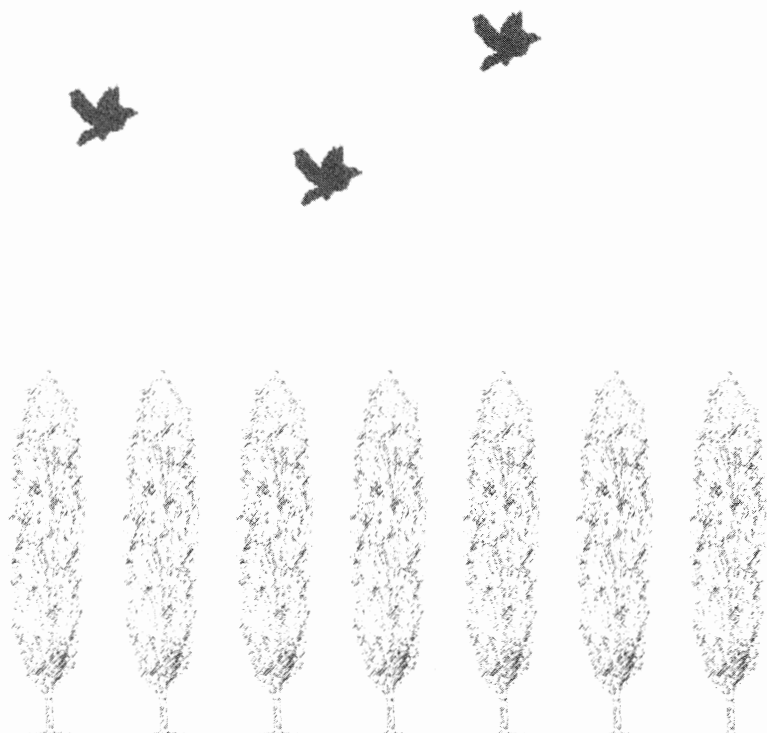
(霊性進化の道しるべ・64)

動機と方法が正しければ、いつか必ず道が開かれる

霊界の道具に徹することは、本当の利他愛に立つことです。自らを霊界の道具と位置づけしてスピリチュアリズムのために貢献することは、最高の人類愛の実践なのです。伝道における動機の純粹性は、「道具意識」によって明確になります。

それに対し道具意識のともなわない伝道は、いつの間にか自分の満足だけを求める利己的な行為に陥ってしまいます。伝道の動機が不純になって、相手のためという利他愛から大きく外れることになります。

「人のため」という利他愛が伝道の動機でなければなりません。それは道具意識によって最も純粹になるのです。伝道における正しい動機とは、道具意識に徹しているかどうかで決定されます。「自らを霊界の道具とする」——すなわち伝道の動機が正しければ、必ず霊界の人々の応援を得られるようになるのです。



私達は“真理の種蒔き”に徹すればよいのです。手紙でもインターネットでも直接足を運んでも、また読書会を開いてもかまいません。どのような方法でもよいのです。ひたすら道具として種蒔きに徹することです。

ただし、その際に注意すべきことがあります。それは「無理な押しつけをしない」ということです。そっとドアを押すように真理を示し、足元において相手の様子を見て、受け入れられそうなきには真理を伝えるということです。これが正しい伝道の方法・進め方です。

時期がきて真理を受け入れられるようになった人は、霊界の霊達によって導かれ、皆さん方の前に現れるようになります。皆さんは、誰が時期のきた人か、分からなくてもかまいません。真理をそっと足元に置けば、その反応で時期がきているかどうか分かります。そうした人は、自分から皆さんに近づいてきます。

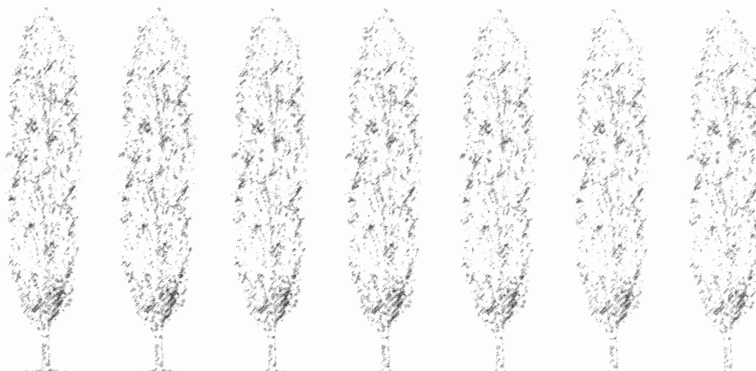
このように皆さん方の動機と方法が正しければ、霊界の人々の導きの中で、いつか必ず時期のきた人に真理を手渡しすることができるようになります。

あなたの方から探してまわることはありません。あなたから発せられる霊的な光輝によって、そういう人が引きつけられるのです。その時こそ、あなたが人のために役立つことができるチャンスです。

(最後の啓示・48)

そこで背後霊というものが用意されていて、自己実現にとって最善の道へ導こうと努力します。あなた方のもとを訪れる人の中には、そうやって背後に導かれて来ている場合があります。その時こそあなた方の活躍の好機です。

(最後の啓示・176~177)



あなたの信仰と忍耐力が、必ず試される

動機と方法が正しければ、いつかきっと伝道の実績は上げられるようになります。時期のきた人との出会いが与えられるようになります。

しかしその前に必ず、皆さんの信仰と忍耐力が試されるような時がやってきます。霊界の人々がどれほど協力したいと思っても、すべては霊的摂理にそった形で働きかけることしかできません——「相手となる地上人に、真理を受け入れられる時期がきているかどうか」「真理を伝えるあなたに、道具としての本当の内容が整っているかどうか」ということです。こうした条件が満たされているとき、初めて霊界の霊達は働きかけることができるのです。

よく、「なかなか良い人と出会えません。何年も伝道しているのに時期のきた人と出会えません。自分は本当に伝道できるのでしょうか？」といった質問を受けます。そうした中で多くの人々は孤独を味わい、時には自信を失ってしまいます。もう自分は伝道などできないと諦める人もいます。孤独に耐えられず、世俗に迎合して人集めに走る人もいます。真理を曲げたり、レベルを下げてPRしようとする人もいます。

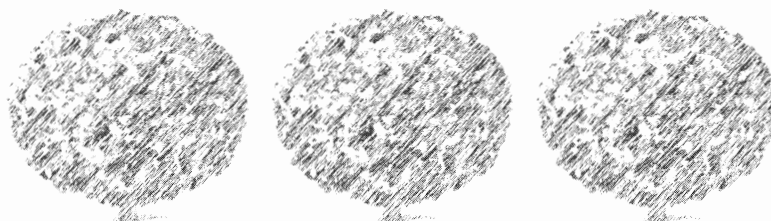
しかしそんなことをしても、結局は失敗するだけなのです。

なかなか良い人に出会えないのは……

一生懸命にやっているのに、なかなか良い人と出会えないという場合には、2つの理由が考えられます。1つは——「動機が純粹でない」ということです。思い当たる人は、もう一度真理を読み返し、祈り、道具としての意識と決心を固め直すことが必要です。道具としての謙虚さが欠如していると、いつまでたっても伝道の成果は上がりません。

もう1つの理由は——すでに霊界サイドでは伝道が進行しているのに、「まだ出会いの時期に至っていない」ということです。この場合は、正しい動機に立って今までどおりの努力を続けていけば、やがて時期がやってきます。今はその出会いに向けて、一步一步近づいているのです。霊界の導きを信頼し我慢していれば、近々素晴らしい人との出会いがもたらされるはずで

す。どのような状況にあっても、霊界の人々が導いてくれていること、目に見える実績は得られなくてもベストの状況が霊界で進行中であることを確信していなければなりません。霊界の人々の導きを信頼して忍耐することが試されているのです。それはあなたの魂を鍛えるチャンスであると同時に、霊界の人々との絆をいっそう強くするチャンスでもあるのです。



たった一人でも……

シルバーパーティの次のような言葉も忘れないようにしましょう。

たった一人でいいのです。(中略) この地上において元気づけてあげることができれば、それだけであなたの人生は価値があったことになります。

(シルバーパーティ 1・31)

大切なのは目に見える実績ではなく、あなたがスピリチュアリズムのため、人々のために「どれだけ真剣に誠意を尽くしたか」ということなのです。結果よりも、誠意のプロセスこそが重要なのです。



(まとめ)

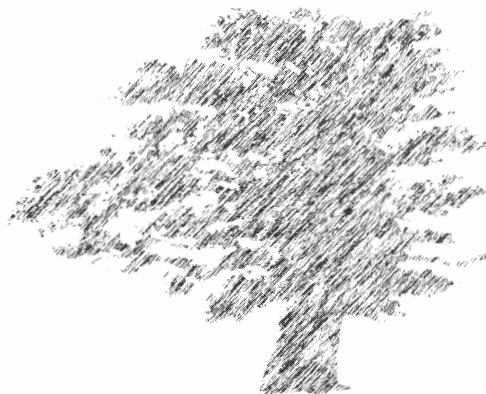
霊的真理との出会い → 伝道の準備 → 伝道実践

自分自身の霊的新生

- 祈り
- 徹底した真理の学習・実践
- 基本的な心がまえの確立
 - ・ 導かれた感謝
 - ・ 守護霊への信頼
 - ・ 人生を捧げる決心
- 霊主肉従の努力

最高の人類愛の実践

- 決して焦らない
- 道具意識に立った伝道
 - 正しい伝道方法
(そっと押して反応を見る)
- 霊界への信頼と忍耐



本物のスピリチュアル・ヒーラーになるための修行とは

多くの方々からの問い合わせ

これまで私達のサークルには、次のような問い合わせや質問が寄せられています。

- ①ヒーラー養成のためのセミナーはやっていないのか？
- ②「日本スピリチュアル・ヒーラーグループ」のメンバーに加えてもらえないか？
- ③どのようにしたらスピリチュアル・ヒーラーになれるのか？
- ④ヒーラーグループではどのような修行をしているのか？

まず①の質問についてですが、セミナーは開いていません。英国では霊能養成セミナーがさまざまな機関によって催されていますが、私達のところではやっておりません。霊能養成セミナーの存在意義を

すべて否定するつもりはありませんが、私達のヒーラーグループでは、その必要性は全くありませんでした。今後の状況如何によっては、何らかの霊能養成セミナーを開催するようなことがあるかも知れませんが、当分は考えておりません。

②の私達の「ヒーラーグループのメンバーに加えてもらえないか」との申し出については、これまでもお伝えしてきましたとおり、お断りしております。なぜならヒーラーグループは、心の道場のメンバーが、スピリチュアリズムへの貢献の一つとして行っているボランティアであるからです。心の道場の中でたまたまヒーラーとしての素質を持った者が、自発的に行っている奉仕にすぎません。私達は、メンバーを増やしてサークルを大きくしようという意思は全くありません。もし、すでにヒーラーとして純粹にスピリチュアリズムのために貢献の道を歩んでいる方がいらっしゃるなら、喜んで同志としてのお付き合いをさせていただきます。



「日本スピリチュアル・ヒーラーグループ」のヒーラー達の実情

心の道場は少人数のサークルであるにもかかわらず、多くの者がヒーリングに携わっています。これは常識的には考えられないことです。もちろんヒーラーの全員が同じ能力を持っているわけではなく、その能力の強さや種類は一人一人で異なっています。

しかしいずれのメンバーも、これまで20年以上の厳しい霊的修行の結果、自然にヒーラーとしての道が開かれるようになりました。必要な人材が、必要な時に、必要な数だけ揃いました。そこに一切の背伸びや無理はありませんでした。意識的にヒーラー養成などをしたこともありません。それどころか大半の者は、自分がヒーラーとして歩むようになるとは想像もしていませんでした。こうした現実の結果を前にして私達は今、霊界からの導きと願いを強く感じとることができます。

私達ヒーラーグループは、本物のスピリチュアル・ヒーリングを通じて一人でも多くの人々にスピリチュアリズムを伝えていきたいと願っています。純粋に霊医のもとで行われるヒーリング（スピリット・ヒーリング）を世の人々に示し、本当に霊が地上人に働きかけていることを知っていただきたいと思っています。私達はこれまで「霊界の道具」として歩む中で、常に多くの霊達に導かれていることを実感してまいりました。

ヒーラーに要求される第一条件とは？

「どうしたら私は皆さん方のようなスピリチュアル・ヒーラーになれるのでしょうか。自分もヒーラーになって人々のために役立ちたいのです」といった熱意のこもったお手紙をいただくことがあります。「心の道場さんは、どのような訓練によって多くのヒーラーを育てたのでしょうか。何か特別な霊能養成訓練でもしているのでしょうか」といった質問も寄せられます。

そうしたお便りをいただくたびに、いつも次のようなシルバーバーチの言葉をお伝えしています。

（質問） どうすれば霊媒や霊視能力者になれるのでしょうか。

大霊のために自分を役立てようとする人間はみな大霊の霊媒です。いかにして魂を向上させるか——これはもう改めて説くまでもないでしょう。これまで何回となく繰り返し説いてきたことではないでしょうか。自分を愛するごとく隣人を愛することです。人のために役立つことをすることです。自我を高めるよう努力することです。内部に宿る神性を発揮させることです。それが最高の霊媒現象なのです。こうすれば霊視能力者になれるという方法はありません。が、大霊の光が見えるように魂の目を開く方法なら教えられます。それは今述べたとおりです。

（シルバーバーチは語る・246～247）



ヒーラーになるための決まった方法はないけれど、もっと価値のある「神の霊媒」になる方法があるとシルバーバーチは言っています。霊能者になるための特別な方法はないけれど、「神の道具」になる確実な方法はあると述べています。それは自らの霊的成長を促す努力を通じてなされます。具体的には、純粋な利他愛の実践をすることで神の霊媒・神の道具になることができると言っています。

これは、犠牲的奉仕精神を持った道具になることがヒーラーの第一条件であるということを意味しています。ヒーラーになりたいという個人的な願望が問題ではありません。どのような形であってもかまわないから、一人でも多くの人々の役に立ちたい・手助けしたいという真実の愛の思いが重要なのです。「人のために役立ちたいという純粋な奉仕精神を持ち、ひたすら霊界の道具に徹すること」——これこそがヒーラーに対して真っ先に要求される条件なのです。

ヒーラーに固執する人の本音は“エゴ”

何が何でもヒーラーになりたいという意識は、本当は本人のエゴ（自己中心性）に他なりません。奉仕を装った単なる個人的な野心・欲望であって、真の奉仕・利他愛ではありません。ヒーラーは見方によっては、とても格好がいいし、時には名声や大きな富が転がり込んでくることもあります。口先ではどれほど「ヒーラーになって人のために役に立ちたい」と言っているにしても、“ヒーラー願望”を抱く大半の人達の本心は、「自分の低俗な欲望を満足させ

たい」というところにあるのです。そうした人々にとっては、他人の幸せより、自分の利益と幸せだけが大切なのです。

他人の幸せを本当に考えるなら、ヒーリングをすることより、霊的真理の伝道を優先すべきであると気がつくはずで、真理の伝道（最高の利他愛の実践）ができるなら、心からの満足を得られるのです。

「何としてもヒーラーになりたい」という“エゴ”にとらわれた人間がヒーラーになったとしても、純粋に人助けに専念するようなことはできません。自分の思いどおりにならないこと、嫌なことが生じると、すぐに醜い利己性をむき出しにするようになります。人助けどころか、人々を騙し苦しめるようになります。いつの間にか低級霊の手足となって自分の魂を貶め、せつかくの人生を台無しにしてしまいます。そして死後も長い期間にわたって後悔の思いで苦しまなければならないようになります。利己的な思いからヒーラーに固執する人間には、危険な“落とし穴”が待っているのです。

このようなケースが圧倒的に多いことを考えると、「ヒーラーなどになるより、むしろ平凡な人間である方がずっといいのに……」と思ってしまうかもしれません。しかしエゴの野心や見栄は、なかなか捨てることはできません。率直に言って、ヒーラーや気功師として活動している人には、こうしたエゴイストが実に多いのです。煩惱にまみれ、この世の野心や見栄に翻弄されたヒーラーは何と醜い人間でしょうか。



ヒーリングは真理の伝道の一手段

そもそもスピリチュアリズムにおけるヒーリングは、「霊的真理の伝道」のために行うものです。したがって肝心な真理の伝道さえできるなら、その方がヒーリングに携わるよりずっとストレートで効果的なのです。それなのにヒーラーに固執するということは、スピリチュアル・ヒーリングの目的も、真理の伝道の意味も全く分かっていないということです。

本来は真理の伝道さえできるなら、ヒーラーになるならないは、どちらでもいいことなのです。真理の伝道を通じて“最高の人類愛”を実践することができます。“最高の人助け”が可能になるのです。ヒーリングは、いまだ真理に直接相応できないレベルの人々を対象とする伝道の手段です。そうした肝心な点を忘れ、低俗な見栄やエゴ・幼稚さから“ヒーラー願望”にとらわれているのです。

低俗なヒーラーをつくり出すだけのヒーラー養成セミナー

こうした低俗で幼稚なヒーラー希望者にとって、実に好都合なのが巷で行われているヒーラー養成セミナーです。この種のセミナーの大半が、単なる人間のエゴを引き出し、魂を貶める手段になっています。「短期間であなたもヒーラーになれる！」を謳

い文句にしたセミナーでも、時にサイキックな能力が発現することがあります。しかしそうしたセミナーで、本当のスピリチュアルな能力がつくことは決してありません。

無理をしてサイキック・ヒーラーになったとしても、いったい何の意味があるのでしょうか。わざわざ低級霊を引き寄せるような結果になっていることに、主催者側も参加者も気がついていません。少し注意深く観察してみれば、いかに程度の悪い霊能開発をしているかは一目瞭然です。程度の悪いエゴまみれのヒーラーを量産することしかできない霊能養成セミナーが、人類に貢献することはできません。これはスピリチュアル・ヒーリングだけに関係することではなく、レイキや気功のセミナーについても等しく言えることなのです。

私どもは人目を引くことばかりしがらる見栄っ張りには用事はありません。使われずに居眠りをしている貴重な霊力を引き出し、同胞のために、人類全体のために有効に使うことを目的とした人たちの集まりには大いに援助いたします。

(シルバーパーチは語る・248)



「スピリット・ヒーリング」こそが本物のヒーリング

スピリチュアル・ヒーリングは、使用する治療エネルギーによって3種類に分類されます。1つ目はヒーラーの肉体エネルギーを用いるもので「マグネティック・ヒーリング」と言います。2つ目はヒーラーの霊体エネルギーを用いる「サイキック・ヒーリング」、3つ目は霊界の医者（霊医）から送られてくる治療エネルギーを用いる「スピリット・ヒーリング」です。

この中でスピリチュアリズムが認める正式なスピリチュアル・ヒーリングは——「スピリット・ヒーリング」です。スピリット・ヒーリングは、霊界の霊達（霊医）の協力があって初めて成立します。

スピリチュアル・ヒーリング

- ①スピリット・ヒーリング
(霊医の治療エネルギーを使用)
- ②サイキック・ヒーリング
(ヒーラーの霊体エネルギーを使用)
- ③マグネティック・ヒーリング
(ヒーラーの肉体エネルギーを使用)

「スピリット・ヒーリング」は霊界主導の治療であり、ヒーラーはその道具にすぎません。ヒーラーが霊医の魅力ある対象とならないかぎり、どれほど願ってもその道具となることはできません。まさに「スピリチュアルな能力」がヒーラーに要求されるヒーリングなのです。言うまでもなくスピリット・ヒーリングの威力は、他の2つのヒーリングとは比較になりません。

心霊的能力（*サイキック能力）を具えた人は大勢います。が、それを霊的レベル（*スピリチュアル能力）まで高めた人は多くは居ません。

(シルバーパーチ1・163)

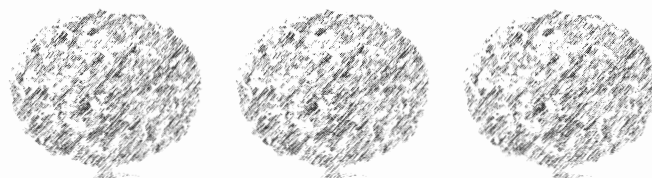
本物のスピリット・ヒーラーになるための霊的修行とは？

本物のヒーラーになるためには、スピリチュアルな能力（霊界の医師達の協力を取りつける力）を身につけなければなりません。では、このスピリチュアルな能力は、どのようにしたら養うことができるのでしょうか？——これが、まさに本物のヒーラーになるための霊的修行の内容なのです。

結論を言えば、スピリチュアルな能力は、長い長い期間をかけた厳しい霊的成長のための努力によって得られるものです。具体的には——「霊主肉従の自己克己の努力」「自分の利益を忘れた犠牲的な利他愛の実践」「純粋な道具意識」を通じて養われるものなのです。これ以外に本物のスピリチュアルな能力を身につける方法はありません。別の言い方をすれば——「真理に一致した厳しい日常生活の努力が、そのままスピリチュアルな能力を養う修行になっている」ということです。

スピリチュアルな能力は、世の霊能養成セミナーのような短期間の実習で身につくものではありません。全身全霊で人類のために奉仕しようとしている高級霊の助力を引き寄せるには、ひたすら純粋で自己を滅却した犠牲精神が必要とされます。お金を払って講座を聴き、わずかばかりの実習をして身につくような次元の低いものではないのです。セミナーによっては、自分達のヒーリングは“霊”によるものであると吹聴しているところもありますが、そんな子供だましの話を信じてはなりません。

本物のスピリット・ヒーラーを目指すなら、他人の病気を治そうとするより先に、まず自分自身を高める努力を始めなければなりません。自らが真理によって生まれ変わって、まともな霊的人生を歩めるような人間になることです。



無理をしてヒーラーになろうと思わない

高級霊の道具となって貢献したいと願うなら、世俗の見栄からのヒーラー願望を捨て去り、ひたすら自分の心を正し、質素で清らかな生活を求めるべきです。同時に可能なかぎり利他愛の実践に励み、必要ならば自己犠牲を厭わず、より完璧な霊界の道具を目指して内面を深めることです。

こうした生活を何年、何十年と過ごすうちに、やがて時がきて突如ヒーラーとしての道が開かれるかも知れません。何一つ自分自身の利益や名声を求めず、霊界の道具として純粋に人生をスピリチュアリズムの奉仕に捧げるとき、そうした道が用意されるかも知れません。

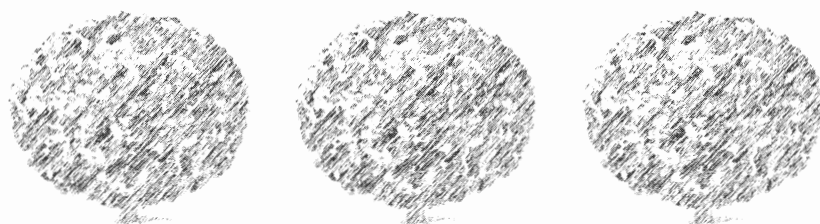
しかし、決して自分から結果を強く望んではなりません。焦って特殊な瞑想や呼吸法・肉体行に走っても、スピリチュアルな能力は身につきません。たまたまサイキックな能力が発現しても、利己性の強く巣くった心に低級霊の進入を許すのが関の山で

す。ヒーラーになりたいと固執した人間で、優れたスピリチュアル・ヒーラーになった例は一つもありません。

こうしたことが分かるため、私達はヒーラーを希望する方に対して、いつも次のようにお伝えしています——「あなたがヒーラーになりたいと思うなら、ヒーラーにならない方がいいのです。それがあなたの“エゴ”を消し去る良い方法であり、あなたの魂を守ることになるのです」と……。

地上人類の霊的再生という大変な事業に携わっていることは事実ですが、それにはまず自分を霊的に新生させなければなりません。真の自我を発見しなければなりません。心を入れ替え、考えを改め、人生観を変えて、魂の内奥の神性を存分に発揮しなければなりません。

(シルバーバーチ1・164)



日常生活が靈的修行となっていない人は、 本物のヒーラーにはなれない

良きスピリチュアル・ヒーラーになるための修行とは——日常生活における「靈主肉従の努力」と「自己犠牲・道具意識に基づく利他愛の実践」に他なりません。言い換えれば——「日常生活がそのまま靈的修行となっていないような人間は、本物のヒーラーにはなれない」ということです。分かってみれば当たり前のことですが、靈性の優れた人間でないかぎり優れたヒーラーにはなれないのです。

これについてのシルバーバーチの言葉を確認しましょう。

(質問) 立派な靈能者となるには日常の生活面でも立派でなくてははいませんか。

生活態度が立派であれば、それだけ大靈の道具として立派ということ。生活態度が高尚であるということは、それだけ内部に宿された神性が多く発揮されているということになるから。日常生活で発揮されている人間性のレベルが靈能者としてのレベルを決定づけます。

(シルバーバーチは語る・242~243)

(質問) ということは、靈格が高まるほど靈能者としても向上すると言って良いでしょうか。

決まり切ったことです。生活面が立派であれば、靈能も立派になります。自分を犠牲にする覚悟の出来ない人間に、いい仕事は出来ません。このことは、こうして靈界での生活を犠牲にして地上へ戻ってくる私たちが身をもって学ばされてきた教訓の最たるものではないでしょうか。

(シルバーバーチは語る・243)

それに劣らず大切な目標は、靈的能力を授かっている人たちがその能力を正しく開発し、仕事の神聖さを自覚し、日常生活においても、最大限の靈力が自分を通して流入するように身持ちをきちんとすることです。

(最後の啓示・167)

本物のヒーラーとは、「高級靈の道具」であること

本物のヒーラーになるということは、「高級靈の道具」になるということです。謙虚で無私無欲の精神を持ち、この世の富や名声を一切求めない心の持ち主であって、初めて本物のヒーラーになることができます。高級靈が喜んで働きかけをするようになります。

先に述べたように、ヒーラーになるための特別な修行方法などというものはありません。“靈性”を高めるための当たり前の努力をする以外にないのです。常により多くの靈界の働きかけを受けられるような「良き道具」を目指して努力することです。この世から認められず、たとえ反対されても、ひたすら道具に徹して誠意を尽くすことなのです。

良き靈界の道具としてのチェック項目を次に示しておきます。



<ヒーラーとしての資格チェック>

- ①一切のお礼も報酬も感謝の言葉も期待せずに、与え続けることができますか？
- ②誰からも注目されず、誰に知られることがなくても、喜んで与え続けることができますか？
- ③相手から不当な非難の言葉が返ってきても、腹を立てずにやり過ごすことができますか？
- ④一人の人間のために、自分の仕事や家族との団欒・家族サービスを後回しにしたり、取りやめることができますか？
- ⑤一人の気難しい患者のために、自分の趣味や楽しみをきっぱりと諦めることができますか？

ここに挙げたチェック項目がすべて実行できないかぎり、その人はヒーラーとしての資格はありません。



こうして霊力の道具として役立つだけの資格を身につけるまでには、それなりのトレーニングが要ります。それは大変なことです。(中略) それは苦難の体験以外には方法がないからです。霊力の道具として歩む道は厳しいものです。決して楽ではありません。容易に得られた霊能では仕事に耐え切れないうでしょう。

(シルバーバーチ 1・161)

要するに霊の道具として少しでも完璧に近づくことを心掛けることです。ご自分の人間性から人間的煩悩をすべてご法度にするくらいでないといけません。そう心掛けただけ、その治療家を通して、より多くの霊力が流入します。治療力の質や量を決定づけるのは、その治療家の生活そのものです。

(最後の啓示・195)

実はこのことが一番大切なのですが——高級な指導霊の協力を得ることができるよう、人間性を磨くことが大切であることを繰り返し説くのは、そこに理由があります。最高の結果を生み出すために、適切な治癒力を適切な形で適切な分量だけ流入させるようになるには、永い年月をかけた厳しい鍛錬が必要です。

(最高の福音・121)



ホワイトハウスで“霊媒”に出会った大統領リンカーン

2005年3月号のツーワールズに、とても興味深い記事が載っていました。それを紹介します。

1809年に生まれたリンカーンは、共和党の第16代大統領として1861～65年の間、その務めを果たしました。彼は1864年に再選された翌年（南北戦争の終結直後）に暗殺されました。

リンカーンは、今でもアメリカの政治史上で最も優れた大統領の一人と見なされていますが、彼が定期的に交霊会に参加していたことは、スピリチュアリストの間でさえあまり知られていません。女性霊媒ネッティ・コルバーン・メイナードの書いた『アブラハム・リンカーンはスピリチュアリストだったのか』という本は長い間絶版となっていますが、その本の中には、彼女が霊媒を務めた大統領の参加したいくつかの交霊会の様子が詳しく述べられています。

以下、ネッティがホワイトハウスで行った二つの交霊会について紹介します。その交霊会には、二人の優れた霊媒も参加しています。先の交霊会には国会議員であったダニエル・E・サムズ氏、後の交霊会にはクランストン・ローリー夫人（*ネッティの説明によれば、彼女の夫のローリーは長年、郵政省の統計学者であった）が出席していました。

2月後半から3月の間、私（ネッティ）はリンカーン大統領夫妻と、何度も交霊会を開きました。普通、交霊会には大統領夫妻以外は参加することはありませんでした。また私が入神中に語った内容について知らされることもありませんでした。したがって交霊会での通信内容について語ることはできません。私がそこで体験したありのままの様子をお伝えすることしかできません。

交霊会は、あらかじめ時と場所を決めて開かれました。交霊会が終わると、リンカーン夫人が次回の交霊会の時と場所を指定し、私はそこに出向くことを約束します。約束の時間は大抵、昼の1時頃でした。大統領は普通30分から45分間、昼食会に参加されます（*それが終わるのが、だいたいその時間なのです）。

ある時、かなり重要な交霊会が開かれました。私がワシントンに戻った直後に、サムズ氏が私のところにやってきました。挨拶を交わした後、彼はある人物から、私を交霊会に連れてくるように頼まれたと述べました。それは極秘のことなので、詳しい内容についてはそれ以上述べることはできないとも言いました。私はいぶかしさを感じましたが、すぐに彼についていく支度を整えました。



用意された馬車に乗り込むと、彼は私に、自分達が向かっているのは“ホワイトハウス”であると告げました。そして彼がその日の午後、戦争省でリンカーンに会ったことを説明してくれました。

その日、サムズ氏が大統領に挨拶をして前を通り過ぎようとしたとき、リンカーンが彼を呼び止めて「コルバーン嬢はまだワシントンにいるのかね。もしいるのなら、夜に彼女をホワイトハウスに連れてくることはできないか？」と尋ねたそうです。サムズ氏が、「コルバーン嬢はまだワシントンにいるので連れてくることができます」と言うと、リンカーンは——「どうか彼女を8時か9時にホワイトハウスに連れてきてください。ただし、そのことはくれぐれも内々に……」と述べたということでした。

彼（サムズ氏）の話が終わらないうちに、私達は歴史の刻まれたホワイトハウスの玄関に到着しました。私達が来るのを待っていた使用人が、すばやくドアを開けました。私達は急いで中に入り、2階の大統領の執務室に向かいました。そこにはリンカーンと二人の紳士が私達を待っていました。

大統領は使用人に、部屋から出るように指示しました。そのすぐ後、リンカーン夫人が部屋に入ってきました。普段とは違った環境の中で私が緊張し過ぎないようにとの配慮から、わざわざ夫人を呼んでくださったのです。

それから大統領は静かに私に——「^{たぐい}類まれな、あなたの天与の才能（霊能）を私達に見せてください」と言いました。そして続けて——「あなたは何も怖がる必要はありません。ここにいる私の友人は、こうした交霊会に何度か参加したことがありますから……」と述べました。

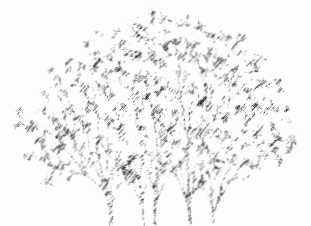
リンカーンが友人と言った二人の紳士は、明らかに軍隊の将校でした。ズボンのストライプ（側線）からそれが分かりました。しかしあごまでボタンの付いたフロックコートが、彼らの階級を示す勲章やバッジを隠していました。

一人の紳士は本当に背が高くがっちりしていました。赤毛の髪と頬ひげを生やし、物腰はいかにも軍

人風でした。もう一人の紳士は、平均的な背の高さでした。私の印象では、先の紳士よりは階級が低いと思われました。彼は薄茶色の髪と青い目をしており、動作がきびきびとしていました。会話の間、彼は無意識的にもう一人の紳士にチラッと視線を向けて同意を求めたり、同意を示していました。

私が入神状態に入るまでの数分間は皆、静かに座っていました。1時間後、私は意識を取り戻し、長いテーブルの側^{そば}に立っていました。そのテーブルの上には、アメリカ南部の大きな地図が置かれていました。私は自分の手の中に、鉛筆を握っていることに気がつきました。背の高い紳士はリンカーン大統領と一緒に私の脇に立って、地図の上に身をかがめて覗き込んでいました。若い方の紳士は、テーブルの反対側に立って熱心に私の方を見つめていました。

私はいくらか当惑して、まわりを見渡しました。そしてリンカーン夫人が、静かに部屋の片隅に席を移していたことを知りました。そのとき私は大統領が——「驚くべきことだ」とつぶやいたのを聞きました。「どうやって我々が計画したのと完全に一致したライン（戦線）をすべて引くことができたのだろうか」「その通りです」と年上の軍人が答えました。「まさに驚くべきことです」



彼らは顔を上げました。そして私が覚醒したことに気がつきました。大統領は私の手から鉛筆を取り、私を椅子に座らせました。二人の軍人は、すぐに後ろの方に退きました。サムズ氏は私達の側に来て、大統領に尋ねました。「すべてに満足いただけましたか?」「完璧です」と大統領は微笑んで答え——「ネッティさんは、入神中には、ご自分の目を必要とされていないようにお見受けしましたが……」と言いました。それから会話は意識的に、日常のありふれた話題に向けられました(*私はそのように感じました)。

その後、私がおその場を去ろうとすると、大統領は低い声で——「当分の間、今回の交霊会については口外しないでください」と言いました。私達はいっさい他言しないことを大統領に約束し、帰途につきました。

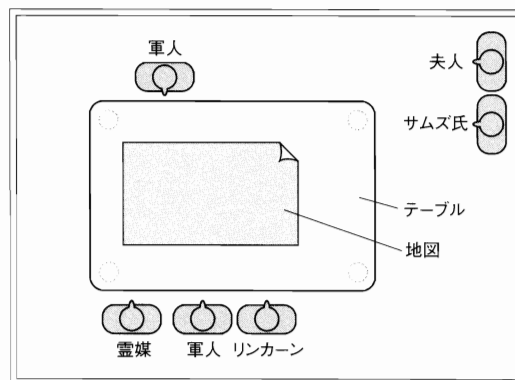
サムズ氏は私に、「交霊会での“霊”からの第一声で、なぜ私(ネッティ)が大統領に呼ばれたか、その理由を通信霊はすでに知っていたことを、はっきりと確認することができました」と述べました。サムズ氏は、私(ネッティ)が誰の助けもなしにテーブルまで歩み寄り、鉛筆を手渡すように要求した

と言いました。そしてその後、大統領はサムズ氏と夫人に、部屋の片隅に留まっているように言ったそうです。「その大統領の指示に従い(部屋の隅に留まり)ました」とサムズ氏は言いました。「私達はあなた(ネッティ)が地図の上にライン(線)を引くのを、全神経を傾けて見つめていました。一度、将校の一人が、あなたの持っていた鉛筆の芯を削りました」

私はこの交霊会の目的については全く知りませんでしたし、サムズ氏が何か他の通信内容について聞いていたのかも分かりません。ただその交霊会には重要な意味があったということは想像がつきます。というのは、当時は何をするにしても、無意味な好奇心のために時間を費やすような状況下にはなかったからです。またリンカーン大統領は、ただ単に友人を楽しませるためのオカルト実演ショーに、自分の時間を費やすような人間でもなかったからです。

そのような普通ではありえない注目が、この私と重大な意味を持った地図に向けられていたことに気がついたときには、喜び以外の何物でもありませんでした。それが私の心に残った印象です。

交霊会の行われた部屋の様子



もし、この交霊会が私の霊媒能力を試すためだけの実験であったなら、サムズ氏とリンカーン夫人も、テーブルのまわりに集まった人々の中に一緒にいたはずです。私は、自分の行った霊媒の役目が感謝をもって受け入れられたことを確信していますし、私の口を通じて示された霊的な導きが、彼らがすでに準備し終えていた計画を再確認させることになったことも確信しています。

この交霊会のように他の多くの交霊会でも、強力な霊的援助と導きによって、きわめて重要な国家的あるいは個人的な利益をもたらすことになりました。そして単なる人間の知識・情報だけでは到底不可能であるような結果を、成し遂げることになりました。

1863年1月のある朝、ローリー夫人が、リンカーン夫人を見舞うために一緒にホワイトハウスに行こうと熱心に誘っていただきました。前日、ローリー夫人がリンカーン夫人を訪問したとき、夫人はひどい頭痛に悩まされ疲れ切っていたそうです。

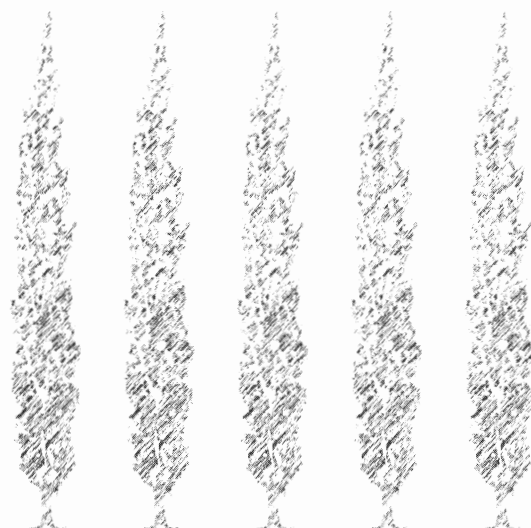
私が訪問したのは11時頃でした。名前を告げ夫人に連絡を取ってもらおうと、2階の彼女の部屋まで上がってくるように言われました。そこには大統領夫妻と一人の紳士と二人の婦人がいました。私はリンカーン夫妻から親切なもてなしを受け、ゲスト（客）を紹介されました。そのゲストの名前は知らされませんでしたでしたが、彼らの視線から、私が霊媒であることはすでに伝えられていたことが分かりました。

私が霊媒の仕事についての説明を終えて退席しようとしたとき、リンカーン夫人が——「今から交霊会を開くことができますか？」と尋ねました。私は皆さんが期待していることに気がつき、それを喜んで引き受け、席に座り直しました。その瞬間、私の意識は失われ、30分後に目覚めました。同席者が感動の声を漏らしたのに気がつきました。私の意識が完全に戻ったとき、彼らは低い声で熱心に囁き合っていました。

人々の囁きは、大統領が重い腰を上げ——「私は

行かなければなりません。残念ですが、すでにだいぶ時間がオーバーしてしまいました」と言う声で遮られました。大統領は客と握手をしてから、私の方に向きを変え、温かい真心のこもった握手をしてくださいました。そして次のように言ってくださいました——「ネッティさん、私達の願いを聞いてくださってありがとうございます。私達はこの小さなサークル（交霊会）を心の底から楽しむことができました」

大統領が部屋を出ると、他の人々からも同様に感謝の言葉をかけていただきました。私がボンネットとショールを身につけようとしていると、大統領夫人が少し待つように言われました。夫人がベルを鳴らして使用人を呼ぶと、使用人がすぐに二つの美しいブーケを持って部屋に戻ってきました。夫人はその一つをローリー夫人に、もう一つを私にくださいました。それから私は、皆さんから握手攻めに会うことになりました。私は、彼ら上流社会の人々が友人や長年の知人に対するのと同じように歓迎されたのです。



日本スピリチュアル・ヒーラーグループからのお知らせ

第4回 公開スピリチュアル・ヒーリング開かれる

去る6月5日、横浜ランドマークタワーで、第4回の「公開スピリチュアル・ヒーリング」を開催いたしました。今回も定員を大きく上回る申し込みをいただき、スピリチュアル・ヒーリングに対する関心の高さがうかがえました。当日は関東地区を中心に、北海道や九州など全国各地から参加していただきました。また直接ヒーリングの希望者も30名を超え、その中から12名の方にヒーリングを受けていただきました。

今回の公開ヒーリングは、これまで以上に充実した霊的雰囲気の中で進行していきました。最初の30

分間は、スピリチュアル・ヒーリングについての説明をいたしました。スピリチュアル・ヒーリングは使用する治療エネルギーの違いによって、「マグネティック・ヒーリング」「サイキック・ヒーリング」「スピリット・ヒーリング」の3つに分類されること、スピリチュアリズムでいう本物のヒーリングとは、霊医（スピリット・ドクター）が主役となって行う「スピリット・ヒーリング」であることを学びました。大勢の方々が、熱心にメモをとっていらっしゃいました。



その後、ヒーリングに移りました。ヒーリングの最中は多くの高級霊達が臨席する中で、霊界と地上界が霊的に一つに融合し、会場全体が純粋な霊的エネルギーに満たされました。参加者の皆さんの中には、自分もヒーリングされていると感じた方や、ヒーラーの背後で働きかけている霊医の姿を霊視した方もいらっしゃいました。ほとんどの皆さんが、霊界と地上が一体となった霊的雰囲気を実感されたようです。

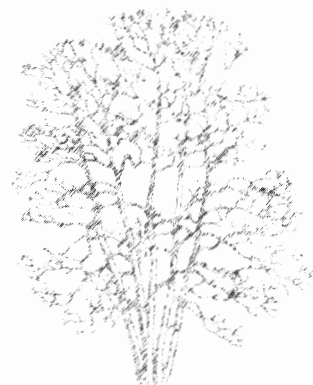
公開ヒーリングは、「シルバーバーチの祈り」の朗読で終了しました。このシルバーバーチの祈りは、日本人の祈りの感性に合わせて、原書から翻訳し直したもので、今回初めて公に披露することになりました。シルバーバーチの祈りによって、霊界人と地上人がともに神の前に拝する時間を持つことができました。

公開ヒーリングも回を重ねるごとに、霊的な質が高まってまいりました。スピリチュアル・ヒーリングは、治療を通じて人々に霊的覚醒をもたらすこと

を本来の目的としておりますが、今回のヒーリングではそのレベルを越えて、すでに霊的真理を学んだ方々が、さらなる霊的成長のために霊的世界を実感する学びの時となったようです。霊と直接に触れ合う霊的実体験の時間となったようです。それは公開ヒーリングそのものが、さながら高級霊と一緒にを行う礼拝であり、またスケールの大きな交霊会であったということです。

私達はこれからも、本物のスピリチュアル・ヒーリング（スピリット・ヒーリング）を通じて、一人でも多くの方々に霊的世界の存在を体験していただき、同時に霊界からの働きかけを実感していただきたいと願っています。

次回の公開ヒーリングは、来年にもう一度、関東地区で行う予定です。そしてその次は名古屋か関西地区でと考えています。詳しくは日本スピリチュアル・ヒーラーグループのホームページをご覧ください。またニュースレターでも、お知らせいたします。



スピリチュアリズム・ビデオ&テープ ライブラリー

VIDEO

ビデオ『地球人類の霊性進化の道 “スピリチュアリズム”』

— 霊的真理のエッセンス・真理編 —

(価格)

「真理編・前編」 2時間テープ 1本……2000円

「真理編・後編」 2時間テープ 2本……3500円

※別途、送料がかかります。

※ビデオは、VHSとS-VHSの2つのタイプがあります。どちらかをご指定ください。
S-VHSのタイプの方が、よりきれいに映りますが、専用デッキでないと再生できません
のでご注意ください。

TAPE&CD

スピリチュアリズム関連書籍

朗読テープ

「スピリチュアリズム入門」 90分テープ 4本……2,000円

「続スピリチュアリズム入門」

90分テープ 5本

60分テープ 1本

計6本……2,800円

「500に及ぶあの世からの現地報告」

90分テープ 8本……3,500円

朗読CD

「スピリチュアリズム入門」 74分 CD 5枚……3,000円

「続スピリチュアリズム入門」 74分 CD 7枚……4,000円

「500に及ぶあの世からの現地報告」

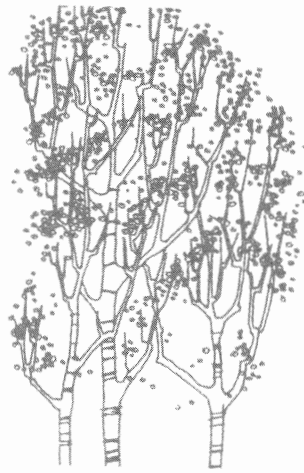
74分 CD 10枚……5,500円

※いずれも別途、送料がかかります。

❖ スピリチュアリズム・ライブラリー ❖

スピリチュアリズム・サークル「心の道場」では、スピリチュアリズム精選シリーズとして、下記の本を自費出版しています。

- ◆スピリチュアリズム入門 (169頁)
ースピリチュアリズムが明かすー「心霊現象のメカニズム&すばらしい死後の世界」
 - ◆続スピリチュアリズム入門 (256頁)
ー高級霊訓が明かすー「霊的真理のエッセンス&霊的成長の道」
 - ◆スピリチュアリズムの真髄「現象編」(297頁)
『The Mediums' Book』 アラン・カルデック編著/近藤千雄 訳
 - ◆スピリチュアリズムの真髄「思想編」(357頁)
『The Spirits' Book』 アラン・カルデック編著/近藤千雄 訳
 - ◆500に及ぶあの世からの現地報告 (437頁)
ーエクトプラズムボックスを通じて明らかにされる死の直後の実生活ー
『Life After Death』 ネヴィレ・ランドル著/小池 英 訳
 - ◆マイヤースの通信ー永遠の大道(全訳) (271頁)
『The Road to Immortality』 G・カミンズ著/近藤千雄 訳
 - ◆マイヤースの通信ー個人的存在の彼方(全訳) (304頁)
『Beyond Human Personality』 G・カミンズ著/近藤千雄 訳
 - ◆霊訓(完訳・上)『The Spirit Teachings』(225頁)
ステイントン・モーゼス著/近藤千雄 訳
 - ◆霊訓(完訳・下)『The Spirit Teachings』(260頁)
ステイントン・モーゼス著/近藤千雄 訳
 - ◆シルバーバーチは語る(443頁)
『Teachings of Silver Birch』 A. W. オースティン編/近藤千雄 訳
 - ◆シルバーバーチの霊訓
ースピリチュアリズムによる霊性進化の道しるべー
『A Voice in the Wilderness』 トニー・オーツセン編/近藤千雄 訳
 - ◆シルバーバーチの霊訓
ー地上人類への最高の福音ー
『The Seed of Truth』 トニー・オーツセン編/近藤千雄 訳
 - ◆シルバーバーチの霊訓 ー霊的新時代の到来ー 『The Spirit Speaks』
トニー・オーツセン編/近藤千雄 訳
- 〈現在絶版となっている書籍の復刻予定〉
- ◆ジャック・ウェバーの霊現象 『The Mediumship of Jack Webber』
ハリー・エドワーズ著/近藤千雄 訳
 - ◆妖精物語 『The Lomng of the Fairies』
A・コナン・ドイル著/近藤千雄 訳



Spiritualism Circle
Kokoro no Dojo